



## 新しい消化器内科がスタートしました

金沢大学附属病院では、2019年4月に旧第1内科、旧第2内科の消化器内科部門が合併し、新しい『消化器内科』がスタートしました。

2022年9月には第2代教授に山下太郎教授が着任し、新教授のもと①全消化器領域の悪性腫瘍 ②慢性肝炎、肝硬変 ③炎症性腸疾患 ④急性膵炎、慢性膵炎 ⑤胆石胆嚢炎、胆管炎 ⑥感染症 ⑦酸関連疾患など、多くの疾患に対し最先端の医療知識、技術を用いて診療を行っています。

今回は特に消化器内科が積極的にかかわっている当院の膵癌診療、肝癌診療についてご紹介します。

### 【ユニットカンファレンスで ベストな治療選択を目指す】

当院の膵癌、肝癌診療の特徴は診療科の垣根なく患者さんにとって最適の治療を選択することです。膵癌診療においては近年化学療法の有効性が向上し、術前化学療法や化学療法後のコンバージョン手術など、内科と外科が緊密に連携して診療を行う機会が増えています。当院の膵癌症例は毎週金曜日に放射線科、肝胆膵移植外科、病理部、がんセンター消化器内科が合同でユニットカンファレンスを開催し、治療前、治療中の画像所見、病理所見を複数の診療科で協議し、どの診療科が担当していても担当診療科以外の最適な治療も選択できるよう、診療科の垣根を越えて連携しています。

肝癌については肝胆膵移植外科、放射線科、消化器内科が毎週水曜日にユニットカンファレンスを開催し、肝癌の初回治療例や治療困難症例の検討を行っています。当院では肝癌に対する肝切除術、ラジオ波焼灼療法、経動脈的カテーテル塞栓術、放射線治療など多くの治療手技が選択可能です。近年は腹腔鏡下肝切除の割合が大幅に増加し、より低侵襲に根治的治療が選択可能となったことや、ラジオ波焼灼療法についてもCT-US fusion imagingなどを用いて従来の治療困難例にも治療が可能となっています。ユニットカンファレンスでは各診療科の得意とする診断・治療領域を持ち寄り、治療法を議論することで患者さんにベストな治療選択肢を呈示しています。

また、近年切除不能肝細胞癌に対しては複数の免疫チェックポイント阻害薬、分子標的薬を用いた薬物療法が選択可能となり、治療選択肢が大きく変わってきています。がんセンターの協力のもと、遺伝子パネル検査に基づく治療法も積極的に導入しており、肝癌でも遺伝子変異に基づいた最適な治療を導入できた症例もありました。薬物療法後の奏効例に対するコンバージョン手術、あるいは術後再発のハイリスク症例における術後再発抑制を狙った術前補助化学療法の臨床試験などにも取り組んでおり、根治治療が可能な早期の肝癌から切除不能肝癌まですべてのStageの肝癌に対応可能しております。

対象となる患者さんがいらっしゃいましたら、是非ご紹介ください。

～ 初めの方の予約は  
予約センターをご利用ください ～

電話（医療機関専用）：076-265-2934

電話受付：9:00～16:30

窓口受付：8:30～16:30

※平日のみ対応。予約の詳細は病院HPを確認ください。

